

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004年8月4日（水）

参加者数：221名 回答数：97名（回答率43.9%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	20	20.6%
2) 農林水産業	3	3.1%
3) 食品関連事業者	32	33.0%
4) 食品関連団体	7	7.2%
5) 研究機関	0	0.0%
6) 行政関係	21	21.7%
7) マスコミ関係	1	1.0%
8) その他	11	11.3%
・ 食肉流通業（1）		・ 技術士（1）
・ 外国公館（2）		・ 脂肪酸製造メーカー（1）
・ コンピュータソフト企業（1）		・ 米国食肉輸入連合会（1）
・ 制作会社（1）		・ 製薬会社（1）
・ 業界団体（1）		・ 無回答（1）
9) 無回答	2	2.1%

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	46	47.4%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	22	22.7%
3) 関係団体からのご案内資料	15	15.5%
4) 知人からの紹介	5	5.2%
5) その他	9	9.3%
・ 農林水産省メールマガジン（2）		
・ 業界誌（4）		
・ 食の安全・安心トピックス（1）		
・ 新聞記事（1）		
・ 無回答（1）		

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	37	38.1%
2) やや評価する	45	46.4%
3) あまり評価しない	14	14.4%
4) 評価しない	0	0.0%
5) 無回答	1	1.0%

評価理由

1) 評価する

- ・ B S E に対して前より考え方が変わりました。今現代のリスクは、私自身も考えるに、難しい問題だと思いました。今後、コミュニケーションを多くふやして欲しいと思いました。
- ・ 専門委員の活動を評価する。
- ・ 不明確な点を不明確として示した点を評価する。
- ・ それぞれの立場での意見交換ができた事。この事を、以降どう生かされていくのが一番大切。
- ・ いろんな考え方の人達から意見を聞くことで、方向性を見つけられる。
- ・ 内容が具体的でわかりやすい情報の提供の場と思うため。
- ・ 多くの専門家の出席に感謝をしたいと思います。行政主導でないのがよかったです。業界の方が多いはちょっとどうかと思います。別の場での消費者の啓発も必要か。
- ・ 一般に公開しての話は非常に役立つ。
- ・ 生産者のご意見、生協の方のご意見、金子先生のご意見等、おもしろい意見を聞けた。また勉強していきたい。
- ・ 専門家（座長、金子氏）からのわかりやすい説明。
- ・ 意見陳述の内容が、消費者等の意向として理解することができて、大変参考になりました。
- ・ 議論の透明性、何が問題かを率直に明らかにし、皆で考えようとする姿勢を評価したい。国民のガス抜き、形だけ国民の意見を十分聞いたとするような、政治的に利用することのないよう、行政に望みたい。
- ・ たたき台を踏み込めていない部分や、陳述者側の思考などよくわかりました。意見陳述については、議論（委員会内での）で、議論しつくしたような気がします。委員会や各省庁などが、どの分野をになっっていて、どう結果を連携していくのか、その線がもっとわかりやすくみえるようになるとういことだと思います。スーパーに足をはこぶ主婦が、かじった情報に流されない、わかりやすく浸透していく情報を考える必要があると思いました。（一番現実的なのは、主婦高橋まみさんの意見だったと思います）。
- ・ 金子先生の説明が非常にわかり易かった。リスコミに必要な視点である。多様な意見が聞けて良い。
- ・ 7名という狭い意見人範囲の中で、それぞれの立場の方を選ばれたと思います。最後に座長の総括があったのはとてもよかったです。
- ・ 一步一步前進することが大事。科学的データの論議を封ずるような“消費者連盟”の発言内容不満。
- ・ 様々な立場の意見を述べさせた点。
- ・ 専門委員会として意見を直接聞くことが出来た。消費者の考え方がいろいろあったこと。
- ・ リスクについて不確実性について説明され、少しずつ浸透してきているように感じられる。主催者側はリスクコミュニケーションになれてきたように見える。科学的評価を自信をもって今後も公表すべき。そのうち消費者も慣れるでしょう。

- ・ 様々な立場の人の意見が発言されたため。
- ・ たいへんすばらしい。委員会の皆様の回答も、意見者の言葉を尊重し、謙虚な態度で良い。今後の評価に期待したい。なお、リスク管理が心配だ。
- ・ 様々な分野の意見が聞けたから。
- ・ 色々考慮された末のことであろうとお察ししますが「消費者の団体」とする一部の議論の為の団体は、別途機会をもうけられた方が良いかと思えます。発想の起点が全く違うと思えます。
- ・ これまでになく、一般市民の意見も聴取できたような印象を持ちました。しかし、もっともっとコミュニケーションが必要と考えます。
- ・ 意見交換に主婦の声が反映され、取り上げられた点。

2) やや評価する

- ・ 意見交換会を実施することは評価するが、たたき台とするまでデータがそろっていない。不確実性が高い内容であると思うので、時機は総早尚だと思う。
- ・ 意見陳述人には評価と管理を混同している方が見うけられた。安全委員会の方でうまくリードした方がよい。
- ・ 7 / 16 第 12 回プリオン専門調査会で議論された「たたき台」の内容確認であったが、新しい情報の提供がなかったのは残念。米国産牛肉の輸入再開に向けた協議が進んでいるが、何をもって合意とするのか、難しいのは分かるが、プリオン専門委員会が科学的根拠をもって明示しなければ時間の浪費となる。早い時期の結論を期待したい。政治的判断はない。
- ・ リスク評価という立場と、リスク管理の違いはわかった。一方、そうした機械的任務分担だと、食の安全を守るにふさわしい対処ができるか、きわめて疑問だ。
- ・ 関係者が多く参加しているので、リスク管理の立場の方にも意見を求めても良かったのではないのでしょうか（現場の状況を説明してもらうべきではないでしょうか）？
- ・ 説明が難しくよく判らない（スッキリしない）（金子先生）。
- ・ 不確実性という点にて、責任のがれが多いのでは？
- ・ 吉川座長のまとめが、フレキシビリティであり、意見陳述の内容を収束させてくれた。
- ・ リスク評価とリスクマネジメントの問題の切り分け。米国産牛のリスク評価の難しさなどの論点が明確になった。
- ・ 意見陳述の内容が同じことが多いと思う。
- ・ うしなのかぎゅうなのか？他の専門用語の説明等もしてほしい。
- ・ 様々な立場から多くの意見を聴く場を設けることは非常に重要と考えます。消費者、食品業界からの意見は大変貴重と思えます。ただ、生産現場や、実際に検査を行っている現場からの視点での意見がもっと多く出れば良かったと思えます。リスク評価を行う側と、それを受けて動く現場と、大きな隔たりがあると思えます。
- ・ リスク管理とリスク評価はどう考えても「食の安全」をまもる上できりはなせるものではない。SRM除去がちゃんとできていない時点で全頭検査をやめたら「安全」がさらにおびやかされて、お肉を食べる人が減ると思う。リスク管理ぬきで食の安全は語れない。

- ・ 消費者 = 消費団体ではない！！消費者団体の意見を国は意識しすぎ。国民全体を考えるべき。これらの方は、基本的に輸入物にすべて反対する人たち。世界の食をもっと考えるべき。高橋まみさんのような意見をもっと重視すべきで、今後食料不足の危機もある中では、世界との調和を重視して食の文化を守って欲しい。食べたくない人は食べなくて良い。食べたい人が食べれば良い。なぜリスクがこんなに低い B S E をここまでお金を使い議論するのか、政府は国民に一任すべき。
- ・ 幅広く意見を求め、対立した意見の人を選んでいる点がよかった。
- ・ 主婦の参加が多過ぎる。漠然とした不安を述べられるので。過大な報道をしがちなマスコミも参加させた方が良い。対立する意見を持っている者同士の論議をさせた方が良いと思う。
- ・ リスク管理者も含めて議論できれば良かった。
- ・ 意見陳述人が各人の意見を述べただけのような気がする。日本の B S E 対策や専門家の「リスク評価」の全体像自体を素人が肯定・否定するよりは、評価たたき台中の各要素についてコミュニケーションを図ればもっとよかったのではないかと思います。
- ・ 一般の主婦でも意見を聞くことが出来るのはよい。色々な意見等が聞けて面白かった。
- ・ 事務局の進め方が不十分。事務局は、あまりにも「リスク評価」にこだわっている姿勢がうかがわれる発言が多く、不快。もっとふみこんだ姿勢が必要（食安委はなんのために設立されたか良く考えろ！）
- ・ 意見陳述人がメディアの情報のうち、自分達の都合の良いものだけを信じており、公平な判断が出来ていない。政府からの情報発信不足なのは。何故、専門家の意見に耳を貸さないのか疑問。
- ・ 食品安全委員の方の生の声が聴けたことは評価します。ただし、意見交換の焦点が定まっておらず、委員会の権限外の質問、意見が多かったのはマイナス。
- ・ 基本的に本日の意見交換会について、意義のある会であると考えます。“たたき台”について、率直な結果の公表という点において、一定の評価をされるべきものであると考えます。実際、情報不足による消費者の誤認識を今後解消するためにも、できうる限り各地で開催して頂けたらと考えます。今回招いた陳述人に消費者団体関係者を含めていることが、ある種のクリーンなイメージを持つことができると考えられ、評価できると思います。
- ・ 意見交換が比較的ゆっくりやられた。だが、まだ討論になっていない。
- ・ リスクコミュニケーションに対する積極的な意見交換の場を求める姿勢を感じる。もう少し、委員会の評価範囲を先にもっと明確にしてから進める方がよい。
- ・ 当委員会の範囲を外れている事であるが行政当局（両省）の返答もききたかった。
- ・ アメリカの牛については情報がとぼしく、評価できないという話がきけたこと。
- ・ それぞれの立場の人を自由に意見を言わせることに意義はあったと思えます。しかし、本来食品安全委員会として求めているたたき台についての意見ではないものもあり、その辺りはやむをえないかなと思います。
- ・ B S E のリスクに対する考え方の意見が聞けた。
- ・ 様々な方の意見が聞けたので。でも、難しい用語が多く出てきて、理解できた部分

が少ししかなかったのが残念でした。

- ・ 時間が少ない。
- ・ 食品安全委員会は、評価、管理、コミュニケーションについて独立した立場でかつ、科学的であるという立場をブレずに継続されることが大切であろうと考えます。合わせて、消費者心理への理解と呼応した情報発信を継続される様に期待します。

3) あまり評価しない

- ・ 何度も同じ事をやっても意味がなく、安全委員会を通して結論を出し、その結論に対する意見交換にそろそろすべきと思います。
- ・ この様な場合は、もっと一般消費者、実際に主婦層の方々へ広げていく事が大事。
- ・ 意見が噛み合わない。質問に対する返答が浅かった。
- ・ 時間が足りない。国民はリスクアナリシスよりもマネジメントについてのコミュニケーションを求めているのでは？ マネジメントは大切だがべつといわれてもこまる。なぜなら、科学的にこうですよといわれると、国民は受け入れる（ざるをえない）に決まっている。
- ・ 馬鹿な意見陳述人が多かった。
- ・ プリオン委員会の評価がわかりにくい。マネージを別な人だという言い方が逃げ腰である。
- ・ 陳述者の選択に偏りがある。“消費者”は主婦のみでなく、幅広い層（サラリーマン層・大学生等）を含めるべき。参加者にあまりに偏ったイメージが蔓延しすぎ。
- ・ 安全委員会が出したたたき台は不確実なものは評価できないという事で、客観的なデータがないリスク管理については評価できないということでしたが、たたき台のメインになっている純科学的な点については、一般消費者がそもそもコミュニケーションを取れる内容ではない。一般の消費者が意見をぶつきたいのは、全頭検査を見直すなら、その前提となるSMRの除去etcの管理体制はどうなのか？輸入牛を和牛と同じと見て良いのか？などの点ではないでしょうか？
- ・ 今日の意見が反映されるのか疑問だから。
- ・ 陳述人との意見がかみあっていない。内容をもっと平易にしないと、一般の消費者には理解が難しい。
- ・ 意見の内、現状維持的な意見が多く、科学的根拠を見て評価をすべき。
- ・ リスク評価が食品安全委員会の仕事であれば、たたき台作成で終わり！意見交換会は、リスク管理を担う部署が行うべきでは？
- ・ 一方的な意見の発表になっている。
- ・ リスクコミュニケーションを行う時期をあやまった（早すぎた）という印象を持った。意見は、リスクマネジメントや機関以外のリスク評価も含めて総体的なものが多く、それに対する回答が出来ていなかった。安全委員会に加え、厚生労働省、農水省の施策方針が明確になった時点で再度コミュニケーション行う必要があると思います。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- 1) 広く関係者の意見を聴き、意見交換する行政の姿勢がみられた

	45	46.4%
2) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた		
	30	30.9%
3) 対行政だけでなく、立場の異なる関係者間での意見交換が大切と感じた		
	50	51.5%
4) 意見交換としては、不十分だった(時間的・内容的)		
	30	30.9%
時間的(9)、内容的(3)		
5) 行政の一方的な説明に終わって、運営に不満を感じた		
	5	5.2%
6) BSE 対策について理解が深まった		
	22	22.6%
7) その他	19	19.6%
・ マスコミ情報を基に判断されている国民の実態が、改めてよく分かった。よく勉強されている方が多いが誤解が多く残念。		
・ なぜ今なのかという疑問ははれなかった。		
・ 会場が暑すぎる。		
・ 高橋さんのような意見を持っておられる消費者がおられることを知って大変心強い!		
・ 座長お2人のプレゼン内容が多すぎる。もっと絞っていただきたい。		
・ 何がしたいのか不明。		
・ (1)に近いが、“行政”という単語が押しつけがましすぎ。これで評価を与えると、“行政”は天狗になります。(1)を“委員会の委員の方々の努力”に置き換えて下さい。		
・ 座長が終始話されていた、客観的な立場中立的な立場に立ちたいというスタンスこそが必要であり、委員会の存在意義が無いという意見は非常に乱暴であると思います。消費者や、その団体の考え方にそぐわない意見は否定というのは主観的であり、それに惑わされることなく、その委員会としての意義を全うして頂きたいと思いません。		
・ 専門的な内容が、かなり平易に説明されてよかった。		
・ リスクコミュニケーションへの努力、労力を大いに評価します。今後の引き続きさらなる努力に期待します。		
・ たたき台について、全頭検査の見直しについてふれるのであれば、その前提となるリスク管理が確立している事が前提となるはずだが、そのリスク管理が不確実性を理由に評価できないのであれば、結論として全頭検査は必要となるはずでは?		
・ 行政の意見がなにもない。		
・ 管理は別という話が多くあったが、リスコミに管理側の発言の機会をもうけてはどうか。		
・ 意見陳述人の意見によりプリオン委がもっとリスク管理施策を検討すべきことがよくわかった。		
・ 概ね科学的評価は出来たのではないかと思う。		

- ・ 政策立案のプロセスの明確化に役立つ。
- ・ Management 部門に比べ、食品安全委員会の活動はとても消費者が納得しうるような活動と思っています。費用がかかるかも知れませんが、さらに拡大されて行くよう期待しています。
- ・ 行政の説明不足。
- ・ 限界を感じつつやっている食委、という印象を受けた。
- ・ 消費者の方々、よく勉強されていると思いましたが、安全な牛肉を届けようと日々がんばっている現場（生産農家、と畜場等、家保も）についてもっとよく知ってほしいです。もちろん食品安全委員の方々にも。

問5 BSE 問題について、どのようなことに関心がありますか？

- ・ アメリカ等の非清浄国及びオーストラリア等の清浄国の安全情報とリスク評価結果。科学のみではなく、マネージメント部門と合わせたリスク評価が、正直必要とってしまった。
- ・ B S E 問題は、今現代の社会に対しての大きな問題と思います。日本の食品企業にも大きな打撃もはしり、国民に対しても恐怖な物だと思いました。今後は、どのようにこのリスクを辺変をさせていくのか見物です。
- ・ リスク管理の実態。
- ・ 不確実性が多いこと。政治圧力が多いこと。
- ・ 第三国のステータス評価。たたき台の中で、検出限界以下の若齢牛の検査について評価したのはよいと思うが、何ヶ月齢以下は検査不要なのか明記していないのは不十分。線引きは管理の問題？評価者の仕事ではないか？
- ・ 牛肉(含む内臓)を食することの安全性と、国民に対する科学的根拠をもった行政、専門家からの十分な説明による、国民の理解と納得。
- ・ 日本のスクリーニングとサーベイランスの考え方。豪州、N Z に対する輸入国としての指導。
- ・ 一般の方々がどれだけ正確な知識をもって B S E 問題に接しているかという事。
- ・ v C J D がどの位の確率で発症するかです。数値が科学的かという机上の議論もありますが、多くの消費者は、日常生活の中に於いての判断基準を欲していると考えます。リスクが受容されるかどうかは、例えば交通事故に比べて多いかどうか、がんにかかる確率に比べてどうかと考える方も多いと云えるでしょう。是非はともあれ、この現実に対して数値による何らかのメッセージは必要であると考えます。
- ・ 全頭検査の必要性のロジック。米国牛肉の安全性に対する考え方。
- ・ 米国牛の輸入再開の時期。
- ・ 肥料用骨粉類のリスク評価（輸入品）。
- ・ 米国が示した B S E 対策の実行性に対する疑問。米国の B S E 頭数 米国実態解明に消極的。日本は積極的検査で 1 1 頭発見。
- ・ 全頭検査のあり方。
- ・ 輸入牛肉（由来成分を含む）を日本国内に持ち込む際の B S E リスク（B S E 発生源国及び非発生源国）。
- ・ 全頭検査の可否と米国牛肉の輸入再開。

- ・ 米国の牛肉輸入再開について。きちんと管理されていない牛を輸入するのは危険すぎると思います。
- ・ 全頭検査。消費者の反応。
- ・ 月令、SRM、検査精度の関係。
- ・ 本日意見を述べた方々が、だからどうして欲しいかわからない。情緒の話をする場ではない。難しい問題であるが、サーベイランスの月令をハッキリすべき。
- ・ 疫学的な検査をより一層拡大してほしい。
- ・ 1、此の疾病に関する正確な情報の伝達に、国はもっと積極的にマスコミ特にTVを通じて行うべきだ。2、USA、カナダからの輸入停止により、一般消費者向けの国産牛価格が25%位値上りし、外食産業、食肉店、スーパー等で牛肉の値上り、原料不足により供給がいちじるしく低迷、いわゆる「牛肉バナレ」が起きている。また、肉牛価格の値上りに伴い素牛（仔牛）価格も大巾に上がり（50万円台＝牝牛）今後の肥育者の経営が危ばれている。24ヶ月令以内のBSE検査を中止して、特定危険部位の除去について厳重なチェックの上、外国工場を指定して輸入の再開をすべきである。3、最終的に消費者の選択にゆだねるべきではないか。
- ・ 米国からの牛肉輸入再開。
- ・ 全頭検査の中止。
- ・ 食の安全性について、牛肉を通して理解する事ができた。食全般のリスク評価をし、今後の対策を十分にしてほしい。
- ・ 早期に全頭検査を止め、サーベランスの考え方に変える事。
- ・ 国内でのBSE対策実施状況について（報告が十分でない点について）。
- ・ 日本政府が「何を食肉の安全としているか」。また、その根拠は何か、という点。
- ・ BSEは本当に安全になるのだろうか。ウィルスの問題でよく変異？して変って行くが、本当に安全なのだろうか。
- ・ 科学的な評価と行政との関係。科学的評価が不確実でも、行政は動かねばならないので、その間の解離の存在の関心あり。
- ・ BSE発生後、なにか問題がおこるたびに対応が現在まで進んできたが、その問題への対応がなされる前のリスクはどうなっているのかが非常に不安。たとえば、牛由来の牛脂、ゼラチン等が多くの加工品に使用されていたが、一定の処理がされる前のものが混入した食品を食べてしまったリスクをどう考えるのかが、忘れられていると強く思う。
- ・ 全頭検査について費用対効果に関心があります。現在のようなことをやっている企業ではつぶれています。行政は費用対効果の深考不足です。
- ・ 本当にBSEとvCDJは同じ病気なのか。プリオンを有すればBSEなのか。
- ・ 安全と安心をつなぐものは何か。
- ・ 政府の方向性。
- ・ 非常に関心あり。公になったインターネット上のものは殆ど見ている。
- ・ 日本国内でのリスク評価と海外物のリスク評価は、明確に分けて行うべき。輸入も発生国と未発生国とのダブルスタンダードになるのか。
- ・ 検出限界（全頭検査）。家畜伝染病予防法。レンダリング等、4D動物の処理現状など。

- ・ 検出限界があるのならば、陽性とならない感染牛を食べていることになるのか？それなら国産牛も食べられない。日本の検査はどうして税金を使うのか？業者が払うべきと考える。肉を食べない人にとっては不公平。
- ・ 米国からの輸入が、どのような説明のもとに再スタートされるのか？
- ・ 米国との輸出入同時再開について。BSEスクリーニング検査の有用性について。
- ・ リスク管理をどうするか、ここが解決しないと国民の安心はえられないと考える。
- ・ BSEの国内のリスクはよくわかったが、輸入については管理がみえないし、各国のチェック体制はまた別の省庁で考えていくものでしょう。消費者側が、正しい情報を得て、何を安全として選択すべきかということだと思います。BSEに限らず、輸入品については、各国の安全基準や状況がみえない。それを選択するのも各消費者、ということにおちつくのではないのでしょうか。国内の生産、国内の安全基準、他国の生産、他国の安全基準、正しい情報提供は必要ですが、選ぶのは誰でしょうか。
- ・ 米国産の再開。全頁にも記入したが、意見の収集、公表をもっと幅広くすべき。元来、米国産を食さない方は“消費者”でなく“生活者”。本当の“消費者”の意見をもっと公表すべき。
- ・ 行政への不信から、全頭検査を開始したと認識している。若齢牛への検査等、科学的妥当性に基づき、体制を整備すると共に、その事を行政、マスコミは国民にしっかり説明すべきである。
- ・ 初期対応のまずさから、この様な大問題になるのだなと思った。金額、情報公開、食肉業界の暗部、結果としては良い方向に向っていると思う。しかし、今回の改正は、アメリカもかんでいてむずかしくもあり…。
- ・ ゼロリスクがあり得ないことへの理解不足から、過剰な反応があり、口も振り回されすぎ。逆手にとったサギ行為には厳罰を！！
- ・ 全頭検査は費用がかかり過ぎるうえ、検出限界もあるので、SRM除去一本に絞った方がよい。また、根拠のない恐れ論により、羊の腸まで禁止にするのは行き過ぎ。とくに加工品にまで制限するのは論外（ケーシング）。
- ・ 科学的関心事項を食品安全性・動物衛生上の関心事項とのあるべき評価が混乱しているので、別々に考えるべき。食品安全・動物衛生上の懸念事項を（BSE問題に限らず）リスク軽減量上得られるベネフィットと、それにかかるコスト（税金も含む）をもっと広く公表すべき。
- ・ アメリカの輸入再開。
- ・ BSEにかかる費用対効果。なぜ日本は世界の人間が食べてる基準以上のことをするのか、税金のむだづかい。政治家の圧力で始まった全頭検査を、なぜ国民にはっきりと明示しないのか？だからこの様なむずかしい議論になっている。これも税金のむだ使いでは？もっと他に大事な食のリスクを考えるべき。生産者の方は検査代を払ってないからいろいろいえること、安心と安全を区別すべき！！米国のリスクはハーバード大がすでに出している。意見が2分されるのであれば、国民にすべてのリスクを公表したうえで、わかりやすく牛丼が食べたいかどうか、アンケートでもしたらどうですか？
- ・ 国民の税金を“むだ”な牛の全頭検査に使うのはどうか？世界の中で、牛を全頭検

査している国は日本だけ。今日の三宅さんのような方が日本の国の意見だとしたら、多くの国民は失望する。これ以上、国の負債を増やすべきではない。

- ・ 検査感度の限界。アメリカ牛の輸入について。
- ・ 全頭検査の年齢が変更されるのかどうか？アメリカの輸入は再開されるのか？この2つは関連しているのか？
- ・ S R M除去の徹底について。スクリーニング検査の対象月齢。
- ・ どのように終えんしていくのか。国側は収束させようとしているように見える。タイミングをはかっている？
- ・ 国内、海外の牛肉の安全。B S Eの情報。
- ・ 全頭検査の意義。
- ・ 手 人への感染課程が明確になれば“安心”につながる。これが明確でない限り“不安”は常に残るのではないか！O - 1 5 7など感染率の高い病気があるにも関わらず、それ程“不安”にならないのは、感染課程が明白であるからと思う。
- ・ 米肉の輸入再開。交差汚染対策の有効性。
- ・ アメリカ産牛肉の輸入再開について。再開に反対ではないですが、結論を急ぎすぎている気がします。慎重な議論を望みます。
- ・ アメリカ産牛肉の輸入再開。
- ・ S R M除去は大切。管理も十分行っていただきたい。
- ・ 安全対策が十分か否か。
- ・ 偽装、いんべいが最大のリスク。
- ・ 1) 輸入牛の実態。特にアメリカのリスク低減の実態。2) 若齢牛のプリオン蓄積の検出の限界はどのくらいか。若齢牛を一律に言うのではなく、年齢を少し区分して説明してもらいたかった。
- ・ 全頭検査。米国からの牛肉輸入再開。
- ・ 米国牛肉の輸入再開問題。
- ・ 他の多くの政策課題のSolutionについて提起することが多い。
- ・ 全頭検査の必要性があるか。検査方法にはどこまで信頼性があるか。安全性への情報はどうすべきか。
- ・ 科学的評価と消費者の安全への考え方にキヨリがある。科学者も消費者の視点で議論すべきである。
- ・ 1、S R Mが本当に適切に除去されているのか。これをどのように把握しているのか、どのように検証するのが問題のように思います。2、又、国民に上記状況をきちんと説明することが必要と思います。
- ・ 発生のメカニズム。日本の発生牛の原因を明らかにすることが必要。肉骨粉だけではないのではないか。
- ・ 新聞の全面広告で、米国食肉輸出連合会がアメリカの牛肉は20万頭を対象に検査していて安全。日本国民は安心して食べてほしいと輸入の早期再開を推進するようにとの主旨であったが、この様な業界や政治的な配慮で輸入再開を決める様なことにならない様、冷静なる評価を貴委員会に出して頂き、その上で十分な検討を重ねた上での輸入再開を望みます。
- ・ 日本の対策の見直しが前提（ピッシング、脊髄除去など）。米国産牛肉輸入問題と

は分けて考えるべき（急がなくてよい）。

- ・ 検査をする立場のため、検査対象の月令や「安全」を消費者にどのように伝えるか？
- ・ 正しいリスク分析の結果を知りたい。リスク評価と管理のあり方を追究したい。
- ・ 日本におけるBSE感染の経路。日本（ドイツ）では、代用乳を介して感染した可能性が指摘されていたと思います。この感染経路が本当に成り立つのかどうか、獣脂そのままではなく、代用乳のかたちで摂取した場合の実験が進められているのでしょうか。
- ・ 輸入再開。

附問5 - 1 上記の関心点について、今回の意見交換会は役に立ちましたか？

1) 大変役に立った	10	10.4%
2) 役に立った	43	44.3%
3) あまり役に立たなかった	21	21.6%
4) 役に立たない	7	7.2%
5) 無回答	16	16.5%

問6 今回の意見交換会の進め方についてお伺いします。

1) 満足	11	11.3%
2) やや満足	46	47.4%
3) やや不満	29	29.9%
4) 不満	1	1.0%
5) 無回答	9	9.3%

また、会の運営等で何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・ 安全委員会の審議経緯及びたたき台はHPで事前に見て来て貰うようにして、時間を節約すべき（コミュニケーションの時間を増やす）。
- ・ リスク管理面についての意見交換が重要と思います。
- ・ 司会進行に問題あり。意見陳述の方の意見のポイントをうまくまとめていないと思う。
- ・ 時間がまもられていない。
- ・ 論点の絞り込みがもう少しあっても良いのではないかと（時間の制約がある為）
- ・ もっと掘り下げて正しい知識を伝える事。全頭検査が安心を作っているのではなくSRM除去によって安全が確保されている事。
- ・ 意見陳述は双方向性を確保する上で重要であり、かつ自由を確保することは要諦であると考えます。しかし一方で、意見陳述人は自由に相応した責任があると思います。具体的には、意見について依った立場、つまり誰の意志を反映しているのかを明らかにして陳述した方が良いと考えます。主婦であれば本人と家族の健康の為、畜産業者であれば畜産を代弁してということになるのでしょうか。不明の方々もおられた様です。主婦の方の意見はストレートで良く理解できました。
- ・ 質問点は質問点として明確にして、その質問に正確に答えるようにして欲しい。

- ・最後の女性の意見発表はかなり時間オーバーで切ることも必要。
- ・短い中でこなしているなど思った。
- ・一方的に発表してコメントするスタイルを討議にもって行って下さい。
- ・時間をもっと充分に取って欲しい。
- ・幅広い意見を聞く事は重要であるが、必ずしも全ての消費者の意見が集約されているように思えないメンバー構成であった気がする(ゼロリスク症候群の人が多い)。
- ・前回の食品安全委員会が主催された、1年をふりかえるというテーマの牛のリスクミ(東京)と比べ、とても良かったと思う。会場もよく、リスクコミュニケーション官が司会進行されたこと、異なる立場の方の意見があったことなど、大変良かった。今後もさらに活躍されることを願ってます。
- ・そろそろ関係者席を最前列から後ろの角に変えて欲しい。独立機関として、農水、厚生を離して欲しい。進行をもっとテキパキして欲しい。意見陳述者が、皆時間オーバーで話すのは見苦しい。
- ・もう少し的をしぼって深く論議するのが良い。しぼった的の論議と広い点からの別々の意見交換会を用意する。
- ・意見に対するコメントをするだけで、十分な議論がその場でできる時間を確保すべき。
- ・時間にもう少し余裕をもってほしい。
- ・時間が短い。意見に対する説明が明確でない。
- ・会場の意見がもっと聞ければ良かったのですが。
- ・意見者の方の発言がはやすぎて理解するのに苦労した。もっと意見交換をききたかった。
- ・会後半の意見陳述、および質疑応答の司会者の方が、吉川座長と金子座長代理へ意見を求めすぎていることについて不満をおぼえます。他の委員の方の意見は必要ないと考えてよいのでしょうか。
- ・各自(発言者)の立場ばかりが目立ったものだった。
- ・評価だけで、あとは役人に投げてしまうような印象を受けた(役人にやらせてBSEでは失敗したはずなのに)。また、米国産牛のリスク評価も同時に行うべきで、国民の関心が何かを理解していないように感じた。
- ・相互の意見交換の時間をもっととってほしい。時間も十分とって、それなりにディスカッションもでき、問題点も明らかになった。
- ・陳述者の選択。先生方の“たたき台”の目的・本質を十分に理解せずになされた陳述が多い。科学的な見地・結果・評価なされたリスクを科学的な見地で判断する事なく、自身の利益・政治的な立場からの判断、コメントをする人、しそうな人は選択すべきでない。この会の主旨に反している。
- ・リスク管理についての意見が多く出たが、農水、厚労の両省に答弁させるべき。行政がオブザーバー参加だけでなく、国民とのコミュニケーションに参加させ、考え方を明示させるべき。
- ・吉川、金子両先生にたよりすぎ。
- ・土俵に乗っているテーマは何なのかの規定をしないと話がかみあわない。高橋まみさんの勇気ある発言に感謝します。

- ・ 時間が足りず、意見交換が十分でない。
- ・ 意見陳述をするより、たたき台の金子先生のプレゼンをもとに、もう少し具体的にたたき台自体の理解を深めるコミュニケーションが取れたら、もっとよかったかもしれないと思う。
- ・ やや主婦よりの意見が多かったのでは？もう少し理性的な意見交換が必要では？
- ・ 過激な意見が一部の人からありましたが、多くの国民は安くておいしい牛丼を食べたいのだと思う。
- ・ 意見交換の時間をもう少し長くしてほしかった。
- ・ 時間の設定に無理があると思う（短すぎる）。
- ・ 9人は多すぎる。同様な意見に対する回答が何度もあるため、意見を最後まで聴いた後、総括して回答した方がよいのでは。
- ・ 意見交換の時間をもう少し長くしてほしい。
- ・ 陳述人の選び方が適切であったと思う。消費者は全員米国牛輸入再開に結びつけて考えていた。マスコミのせいもあるが、なぜ誤解されたか、主催者側の反省が必要。
- ・ 意見陳述の時間が長い。回答が重複している箇所もあり、もう少し人数をしばってもよかったのではないかと思った。
- ・ 座りごちが良い。食安委員でするより良い。
- ・ 意見交換により時間を使うべき。
- ・ 意見陳述者が片寄ったのではないか。
- ・ 意見陳述人の落ち人の意見も公開すべき。
- ・ 朝からもっと長時間で討論をききたかった。時間がみじかすぎる。
- ・ 試みの機会であり、十分とは言えないとしても、もっと自信をもって進行した方がよかった。
- ・ 西郷さんご苦労様！
- ・ 一般参加者とも意見交換すべきです。
- ・ 会場との意見交換時間、もう少し必要。その場合の発言時間管理。
- ・ どうしても都合がつかず開催時間に遅れて入場、最後列に座った為、プレスの方のシャッター音と資料を捲る紙の音（カメラマンの方だと思いますが、座席の後ろでガサガサと・・・）、話し声が耳ざわりで、休憩時他所に移りましたが、今少し配慮を頂きたかった。
- ・ 意見交換の時間を確保するため、会議の時間を少なくしても良かったのではないでしようか。全体的には大変参考になりました。
- ・ 意見交換会までの日程が詰まりすぎている。Netを利用して、もう少し時間をとって論議することが重要と思う。
- ・ 1人10分は話させてもいいのでは。もちろん短くてもいい。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

- 1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）
71 73.2%
- 2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、

意見募集、リスク評価等)

	76	78.4%
3) 食の安全ダイヤル	36	37.1%
4) 食品安全モニター	34	35.1%
5) 食品の安全性に関する政府広報	34	35.1%
6) その他	3	3.1%

- ・ 学習会等で。
- ・ 農水省の食品安全行政メールマガジン。食安委にもあるといい(あったとしたら申し訳ありません)。
- ・ 無回答

附問7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ 遺伝子組換え農産物についてのリスクミを行ってほしい。
- ・ ホームページに議事録が掲載されるのを、もう少し早くできないか。
- ・ 交換会内でもあったが、一般消費者にも理解できる言葉で情報公開をお願いしたい。又、食品安全委員会の存在を知らない消費者がたくさんいると思います。国民の意見を取り入れているとは考えにくいと思います。
- ・ リスクマネジメントについて、意見の交換は行われるのですか？
- ・ トレーサビリティについて、もっと議論してほしい。
- ・ 「食の安全リスクコミュニケーション」・ ポジティブ評価とは。
- ・ 先日、ホームページにひじきについてQ Aが掲載されたが、非常に見つけにくい。もっと上の方にのせるべきでは？もしくは、もう少し見つけやすいようにしてほしい。
- ・ 食品の安全に関する用語集の充実を望んでいます。そこにはない用語は使わないというくらいの意識を関係者が持たないと、一般人には文章が難解でとても理解出来ない。
- ・ 用語集を参考として理解しているが、よりやさしい用語を用いるべき。
- ・ ホームページの字が小さすぎてわかりづらい。食安委は国民の健康を守るために設立されたことをふまえ、リスク評価機関にこだわりすぎず、評価に基づく管理のあるべき内容も踏み込んで提言すべき！
- ・ 傍聴の案内がホームページに掲載されていますが、議題の内容をもう少し詳しく掲載してほしい(例、議題の内容を4～5桁で書いてほしい)。
- ・ もう少しわかりやすい文章がほしい。今日の金子先生がおっしゃったように「わからない」という言葉の羅列が、よけいに消費者を不安にするのでは？
- ・ 公開について、充分になされていない処をインターネット上でやれる様にしたら良い。
- ・ HPは大変見やすく、利用させていただいています。
- ・ 関連する文献、調査報告書についても、HPで公開してもらいたい。
- ・ 意見交換会でも出ていましたが、食について一番関心があるのは主婦かもしれませんが、ですが、ホームページなど難解であったり、委員会が公開されていても知らない人が多数。最終的には情報を自分でどう選択するかになるかと思いますが、

委員会側と消費者側のみぞを埋めていく必要もあると思います。リスクを評価する委員会、それを反映していく各省庁として、消費者の相互理解と連携により、意識も情報（正しいもの）も高めていく努力が必要だと思いました。

- ・ ある団体が、最後に結論づける様な意見に対しては慎重に対応すべき。報道陣はそこだけ強調して流す。その団体は色々な名称を使って（意見陳述含め）参加しており、意見誘導していると感じている。
- ・ 吉川座長の総括、たいへん良かったです。今後もいろいろ会議等でもお願いします。
- ・ 急な場合など、時々、新着情報を食品安全委員会ホームページ上で見逃してしまう。メーリングリストなどで周知してもらえる方法があるといい。
- ・ 安全委員会のホームページは、資料や議事録の掲載が早くて良いと思います。
- ・ 安全委員会は研究の立場ではありますが、リスク回避的（責任を持たない）発言が多いことは確かだと思います。目的があることなので、時には勇気ある発言をお願いします。
- ・ 国内対策についてなのか対外問題なのか、整理が必要と感じました。
- ・ 原さんの意見はごもっともです。コストベネフィットを検討するのはリスク管理機関ということをもっとPRすべきだと思います。
- ・ Risk Assessment は大変良く出来ている。誰かが云われた人への発値は、委員各自のものを出すべき。
- ・ 安全ダイヤルのメールに受信記録をつけてほしい。モニターや人材募集に資格をあげているが、資格がなくてもいい人材はたくさんいると思うので、資格を撤廃してほしい。知識優先で。
- ・ 本日発言しなかった多くの人から、意見提出の機会を・・・。
- ・ 海外の団体専門家等ともより多く情報交換なさを提案致します。
- ・ インターネットで資料公開は、大変良いことと思います。消費者にもっとわかり易く、例えば、本日の吉川先生、金子先生のご講演などは、PPスライドと共に動画で提供する等の試みもトライしてはどうかと思います。
- ・ 意見陳述者の数が多くて、十分な討議が出来なかったのではと少し残念に思いました。評価についても、確かに幅広くなるのは大変かと思うが、やはり必要と思われる範囲については出来るだけ広範なものを求めたいと思います。日本生協連の原氏の意見に賛同します。
- ・ 全委員が出席したこのような機会を多くもって下さい。
- ・ 早期に確実にこれらを実施されていることに敬意を表します。しかし、BSEの問題は軽率に判断すべきでないと感じる。
- ・ 意見交換会での主婦のかたもいったように、子供たち、いまの若者たちにも、分かりやすく、BSEに関心を与えてほしいです。自分自身も学生の立場で少し分からない点もありました。